

問1 1980年代から中国が実施した「改革・開放」政策において、シェンチェン（深圳）などの沿岸部の都市に設けられ、海外の資本や高度な技術を積極的に導入した地域を何と呼びますか。（2026年 岐阜公立入試 類似）

1. 経済特区 2. 自治区 3. 直轄市 4. 特別行政区

問2 中国の各地域における農業の特色について説明した文として、華北平原や東北地方の状況を正しく述べているものはどれですか。（2017年 山口公立入試 類似）

1. 比較的少ない降水量と寒冷な気候に合わせ、小麦などの生産を目的とした畑作が広範囲で行われている。  
2. 温暖多湿な気候を活かし、長江流域と同様に大規模な水田地帯が形成され、米の二期作が行われている。  
3. 年間を通じて高温であるため、広大な平原を利用して茶やさとうきびなどの工芸作物の栽培が中心となっている。  
4. 外来河川から水を引くことで、乾燥帯特有のオアシス農業が発達し、主にぶどうや綿花の栽培が行われている。

問3 南アジアに位置し、インドの北側で中国と国境を接する内陸国であるネパールやブータンでは、大規模な地震が頻繁に発生するという特徴があります。これらの国々で地震が多く発生する地形的・地質学的な理由として最も適切な説明を選びなさい。（2024年 神奈川県公立入試 類似）

1. 非常に古い地層で形成された安定陸塊に位置しており、地殻が極めて厚いため。  
2. 地殻変動が活発な造山帯に位置しており、プレートの衝突による力が蓄積されやすいため。  
3. 環太平洋造山帯の一部に含まれており、周辺に数多くの火山が密集しているため。  
4. 広大な砂漠地帯が広がるステップ気候の地域であり、乾燥によって地盤が緩んでいるため。

問4 アルミニウムの原料となる鉱産資源と、2000年から2010年にかけて世界全体のアルミニウム生産量に占める割合が約11%から約39%へと急増し、生産量も5倍以上に成長した国との組み合わせとして適切なものはどれか。（2016年 茨城県公立入試 類似）

1. ボーキサイトー中国 2. 鉄鉱石ーブラジル 3. 銅鉱ーオーストラリア 4. ボーキサイトーインドネシア

問5 東南アジア諸国連合（ASEAN）に加盟している国の中でも、インドシナ半島の中心部に位置し、国民の多くが仏教を信仰している国の名称として正しいものはどれですか。（2022年 高知公立入試 類似）

1. タイ 2. エジプト 3. カザフスタン 4. オーストラリア

問6 2000年には128社であったベトナム進出の日系製造業の企業数は、2012年には373社へと急増しています。このように、日本の製造業がベトナムへの進出を拡大させている主な理由として、労働力の面から説明したものととして最も適切なものはどれですか。（2016年 三重公立入試 類似）

1. ベトナムの製造業作業員の平均月収は、日本を100とした指数で見ると5を下回るほど低く、生産コストを大幅に抑制できるから。  
2. ベトナムは石油や石炭などの鉱産資源が極めて豊富であり、原材料の調達コストが日本国内よりも安く済むから。  
3. ベトナムは周辺諸国に比べて人口が圧倒的に多く、自社製品を販売するための巨大な消費市場として成熟しているから。  
4. ベトナムの労働者は日本を上回る高度な技術力を有しており、日本国内では不可能な高精密な製品の製造ができるから。

問7 インドのICT産業が世界的に高い競争力を持っている理由を説明した文章として、最も適切なものはどれですか。（2020年 沖縄公立入試 類似）

1. イギリスの植民地時代から普及している英語を話せる技術者が多く、欧米企業との連携が容易なため  
2. 公用語であるヒンディー語が世界共通のビジネス言語として認められ、広く普及したため  
3. 独自の文字を用いた高度な暗号技術が伝統的に受け継がれ、セキュリティ分野に特化したため  
4. 安価な労働力を確保するために、低賃金で単純なデータ入力作業を国家規模で推進したため

問8 東南アジアの農業の特色について述べた次の文のうち、二期作の内容を正しく説明しているものはどれですか。（2024年 大分県公立入試 類似）

1. 同じ土地において、1年間に米を2回収穫することで、食料自給や輸出を支えている。  
2. 米の生産過剰を防ぐため、同じ土地で米の代わりに野菜や果物を栽培している。  
3. 同じ土地において、夏には米を、冬には小麦や大豆などの別の作物を栽培している。  
4. 地力を維持するために、同じ土地で年ごとに栽培する作物を定期的に替えている。

問9 アジア州において、米や茶、天然ゴムといった特定の農産物の生産割合が世界全体の過半数を超え、圧倒的なシェアを誇っている主な要因について、自然環境の観点から説明したものととして適切なものはどれですか。（2025年 秋田公立入試 類似）

1. 季節風（モンスーン）の影響により、夏に高温多湿となる地域が広く分布しているため  
2. 広大な乾燥帯が広がり、日照時間が極めて長く灌漑農業に適しているため  
3. 偏西風と暖流の影響により、年間を通じて温暖で降水量が一定であるため  
4. 永久凍土が広がる寒冷な気候により、病害虫の発生が抑えられているため

問10 鉄鉱石や石炭の産地と製鉄所の分布を示した統計資料において、中国の内陸部に多くの製鉄所が配置されている特徴を説明した記述として正しいものはどれですか。（2022年 大阪公立入試 類似）

1. 国内で産出される石炭や鉄鉱石の産地と重なるように製鉄所が立地している  
2. 海外から輸入される原料を加工するため、河川の河口付近にのみ製鉄所が集中している  
3. 石炭の産地から離れた、消費電力の少ない高原地域に製鉄所が集中している  
4. 内陸部の農業地帯に肥料を供給するため、農地に近い場所に製鉄所が分散している

問11 西アジアの産油国では、乾燥帯という厳しい自然環境にありながら、急速な近代化を成し遂げた国々が多く見られます。これらの国々が近代的な都市開発を進めることができた背景と、その具体例として最も適切な説明はどれですか。（2023年 高知公立入試 類似）

1. 油田から産出される原油や石油製品の輸出で得た多額の利益を背景に、ドバイのように砂漠の中に高層ビルが立ち並び都市を建設した。  
2. カスピ海東部の広大な草原地帯における小麦の輸出利益を背景に、中央アジア諸国と連携した大規模な工業地帯を整備した。  
3. 地中海沿岸の温暖な気候を利用した観光業の収益を背景に、アフリカ北部の砂漠地帯で最新の農業プラントを建設した。  
4. 南アメリカの産油国と協力して得たバイオ燃料の利益を背景に、熱帯雨林の跡地に世界最大規模の商業都市を建設した。

問12 日本と西アジアの特定の国との貿易について、その国の日本への輸出総額が約6兆円にのぼり、品目別では原油が83.4パーセント、揮発油が8.1パーセント、液化天然ガスが4.2パーセントを占めている場合、この貿易相手国として最も適切な国名はどれですか。（2025年 鹿児島公立入試 類似）

1. アラブ首長国連邦 2. サウジアラビア 3. トルコ 4. イスラエル

## 答え合わせ・解説

問1	答え 1 経済特区	中国は1970年代末から「改革・開放」政策へと転換し、1980年代にシェンチェンやアモイなどを指定しました。税制上の優遇措置などを設けて外国企業を誘致したことで、これらの地域は急速な工業化を遂げ、中国の経済成長をけん引する役割を果たしました。
問2	答え 1 比較的少ない降水量と寒冷な気候に合わせ、小麦などの生産を目的とした畑作が広範囲で行われている。	華北平原や東北地方は、中国の主要な食料生産基地ですが、その気候は「少雨・寒冷」という特徴を持っています。この環境に適応するため、古くから小麦を主食とする食文化が発達し、大規模な畑作地帯が形成されました。一方で、降水量の多い長江以南では稲作が盛んであり、気候条件が農業の地域差を生む決定的な要因となっています。
問3	答え 2 地殻変動が活発な造山帯に位置しており、プレートの衝突による力が蓄積されやすいため。	ネパールやブータンは、世界最高峰の山々が連なるヒマラヤ山脈の周辺に位置しています。この地域は、インド・オーストラリアプレートとユーラシアプレートが衝突して形成された「新期造山帯」の一部です。現在もプレート同士の押し合いによる地殻変動が活発に続いているため、蓄積されたひずみが解放される際に大規模な地震が発生しやすい環境にあります。
問4	答え 1 ボーキサイト — 中国	アルミニウムの原料はボーキサイトという鉱石です。2000年から2010年にかけて、中国は急速な工業化と経済成長を背景に、アルミニウムの生産量を2,430万tから4,120万t（世界計に対するシェアは11.5%から39.3%）へと飛躍的に増大させ、世界最大の生産国となりました。
問5	答え 1 タイ	タイは東南アジアのインドシナ半島に位置する国で、伝統的に仏教が深く信仰されており、寺院や僧侶が人々の生活と密接に関わっています。選択肢にあるエジプトはアフリカ大陸北東部、カザフスタンは中央アジアの内陸部、オーストラリアはオセアニアに位置する国であり、場所も文化背景も異なります。
問6	答え 1 ベトナムの製造業作業員の平均月収は、日本を100とした指数で見ると5を下回るほど低く、生産コストを大幅に抑制できるから。	2000年代以降、日系製造業のベトナム進出が加速した最大の要因は、安価で豊富な労働力にあります。実際に製造業作業員の平均月収を比較すると、日本を100とした場合にベトナムは4.7という極めて低い水準にあり、人件費を抑えて生産コストを下げることを目的とした進出が相次ぎました。資源の豊富さや市場の規模よりも、この賃金格差が大きな進出動機となっています。
問7	答え 1 イギリスの植民地時代から普及している英語を話せる技術者が多く、欧米企業との連携が容易なため	インドのICT産業発展の背景には、高い数学能力に加え、英語を公用語として活用できる人材の豊富さがあります。これにより、時差を利用してアメリカ合衆国のソフトウェア開発などを夜間に引き受けるアウトソーシング（業務委託）が円滑に進みました。ヒンディー語はインドで最も話されている言語ですが、国際的なビジネスシーンでは英語が主要な武器となっています。
問8	答え 1 同じ土地において、1年間に米を2回収穫することで、食料自給や輸出を支えている。	二期作は「同じ土地」で「1年間に2回」「同じ作物（主に米）」を育てる形態を指します。他の選択肢にある、米の代わりに別の作物を作ることは「転作」、異なる種類の作物を1年で作ることは「二毛作」、年ごとに作るものを変えることは「輪作」であり、二期作とは目的や仕組みが異なります。
問9	答え 1 季節風（モンスーン）の影響により、夏に高温多湿となる地域が広く分布しているため	アジア州、特に東アジア・東南アジア・南アジアでは、季節風の影響で夏に大量の降水があります。この気候特性は、生育期に高温と多量の水を必要とする米の栽培に最適です。また、天然ゴムは東南アジアの熱帯気候を、茶は温暖な傾斜地を利用して生産されており、それぞれの地域の自然条件を活かした産業構造が、世界的な高い生産シェアの背景にあります。
問10	答え 1 国内で産出される石炭や鉄鉱石の産地と重なるように製鉄所が立地している	中国の内陸部における製鉄所の分布を確認すると、石炭の産地である華北や、鉄鉱石の産地である東北区などの資源分布と強く相関しています。日本の製鉄所が輸入原料に依存し臨海部に立地しているのに対し、中国では国内資源を活用するために、内陸部の原料産地に工場を置く形態が発展してきました。
問11	答え 1 油田から産出される原油や石油製品の輸出で得た多額の利益を背景に、ドバイのように砂漠の中に高層ビルが立ち並ぶ都市を建設した。	西アジアの国々は、降水量が極めて少ない乾燥帯に位置していますが、20世紀半ば以降、油田の発見によって経済が激変しました。輸出によって得られた膨大な資金（オイルマネー）は、道路、港湾、海水の淡水化施設などのインフラ整備だけでなく、アラブ首長国連邦のドバイに見られるような、砂漠の中の近代的な高層ビル群や世界的な観光拠点の開発に投入されました。これにより、伝統的な遊牧生活から、高度な都市生活へと社会構造が大きく変化しました。
問12	答え 1 アラブ首長国連邦	アラブ首長国連邦は、ペルシャ湾沿岸に位置する西アジアの産油国です。日本にとって極めて重要なエネルギー資源の供給源となっており、輸出品目のほとんどが原油や液化天然ガス（LNG）といったエネルギー資源で占められているのが特徴です。サウジアラビアも産油国ですが、提示された統計データはこの国特有の輸出比率を示しています。